

2006年度刊行物発表一覧

1 常勤教員

1.1 新井和広

口頭発表

- 2007.01.06 「ハドラーミー・サイイド:家系史再構築の問題点」, 『上智大学イスラーム地域研究拠点グループ3 第1回研究会』, 上智大学アジア文化研究所 (東京・四谷)
- 2006.12.02 「東南アジア住民としてのアラブ:アイデンティティをめぐる諸相」, 『日本華僑華人学会2006年度第5回研究会』, 東京外国語大学本郷サテライト3階 (東京)
- 2006.10.07 「アラブ系住民から見た東南アジアのイスラーム」, 『ISEA 東南アジアのイスラーム 第一回 総合ワークショップ』, 東京外国語大学 AA 研 (東京)
- 2006.06.10 「ある飢饉の記録:南アラビア・ハドラーマウト 地方と日本による東南アジア占領」 (なしと共著), 『東南アジア史学会第75回研究大会』, 名古屋大学東山キャンパス (名古屋)
- 2006.05.25 「インド洋におけるアラブの移民活動:東南アジアの事例から」, 『AA 研フォーラム』, 東京外国語大学 AA 研マルチメディア会議室 (304) (東京)

エッセイ等

- 2006.11.25 「タリーム (イエメン・ハドラーマウト) の図書館、「マルカズ・アル=ヌール (光中心)」を訪ねて」, 『AA 研通信』, 16 p.

公開講座

- 2006.12.15 「インド洋を横断するハドラーミー商人」, 『中東理解講座 2006年度 第2期 グローバル化するイスラーム (2)』 ジャパンファウンデーション (国際交流基金) (ジャパンファウンデーション国際会議場 (東京・赤坂))
- 2006.12.14 「海を渡ったアラブを探して:ハドラーミーを追う私の旅」, 『シリーズ旅するアジア』 上智大学アジア文化研究所 (上智大学図書館 L911)
- 2006.12.01 「諸地域世界の交流—陸と海のネットワーク、海の道の発展」, 『高校教科書で読み直す世界の歴史』 朝日カルチャーセンター・東京 (朝日カルチャーセンター・東京 (新宿住友ビル7階))

取材協力および紹介報道など

- 2007.01.08 「新戦略を求めて 第5章 イスラムと日本 (2) テロ阻止 穏健派と連携を」, 朝日新聞朝刊 (朝日新聞社)

1.2 荒川慎太郎

論文

- 2006.04.17 「ロシア所蔵西夏文『大千国守護吉祥頌』断片の研究 —東方学研究所サント・ペテルブルグ支所所蔵文書 Tang.477, No.7100 について—」, 「ユーラシア諸言語の研究」刊行会編 『庄垣内正弘先生退任記念論集 ユーラシア諸言語の研究』, 「ユーラシア諸言語の研究」刊行会, pp.63–80
- 2006.03.31 「ロシア所蔵西夏語訳『般若心経註』の研究」, 『中央アジア古文献の言語学的・文献学的研究』, pp.95–156(+図版 8)

著書共編

- 2006.03.31 *СЛОВАРЬ ТАНГУТСКОГО (СИ СЯ) ЯЗЫКА; Тангутско-русско-англо-китайский словарь* (ed. E. И. Кычанов, С. Аракава), 京都大学, 780(+xv) p.

学術的報告など共編

- 2007.03.31 荒川慎太郎, 小田昌教編 『「好奇字展」パンフレット』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, (AA 研特別展示会「好奇字展—漢字と東アジアの文字周遊」2007.2.13-3.23, 会期延長 2007.4.9-4.20), 24 p.

翻訳

- 2007.03.31 「宗教的信仰と環境的必然性—11-14 世紀の中央ユーラシア・カラホト地域におけるチベット密教の実践」, 井上充幸・加藤雄三・森谷一樹編 『オアシス地域史論叢 —黒河流域 2000 年の点描—』, 松香堂, pp.41–55

口頭発表

- 2006.09.19 「黒城出土西夏語音韻学資料考」, 『黒水城人文与環境国際学術研討会』, 額済納賓館大汗食府 1F 大広間 (中国・内蒙古自治区・額済納旗)
- 2006.11.02 ‘On the “Tibetan-style” Tangut sentences in some Buddhist materials’, *St. Petersburg State University, Faculty of Philosophy and Political Science, International Conference “Tangut civilization: scientific traditions and perspective of research”*, St. Petersburg State University, Faculty of Philosophy and Political Science, Room 108 (St. Petersburg, Russia)

エッセイ等

- 2007.03.31 「黒城そして緑城」, 渡邊三津子・秋山知宏・中尾正編 『オアシス地域研究会報別冊 黒河のほとりを歩く』, 総合地球環境学研究所, 62 p.
- 2006.07.23 「西夏の時代 (歴史をひもとく 40)」, 『週刊朝日百科シルクロード紀行』, pp.12–15
- 2006.07.23 「ピョートル・K・コズロフ (シルクロード人物伝 40)」, 『週刊朝日百科シルクロード紀行』, pp.18–19
- 2006.07.23 「タンゲートと西夏文字 (民族と宗教 36)」, 『週刊朝日百科シルクロード紀行』, 22 p.

1.3 飯塚正人

報告書共著

- 2006.06.01 平成 14 年度～17 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書『1990 年代半ば以降のイスラーム世界におけるジハード理論の変容と実践の研究』（黒木英充，中田考，山岸智子と共著），109 p.
- 2006 *Ancient and Islamic Rock Inscriptions of South Sinai* (with M.Kawatoko, R.Tokunaga), The Middle Eastern Culture Center in Japan and ILCAA, 128 p.

学術的報告など共著

- 2006.08.14 「イスラーム シーア、スンニ 中東宗教地図」（山岸智子と共著），『週刊エコノミスト 8 月 14 日臨時増刊号』，毎日新聞社，pp.126-127

口頭発表

- 2007.02.15 「イスラーム政治思想の展開」，『同仁倶楽部イスラーム研究会』，同仁倶楽部（東京）
- 2007.02.01 「イスラーム原理主義とテロリズム」，『防衛省防衛政策研究会』，防衛省（東京）
- 2007.01.27 「イスラームの現在」，『同志社大学一神教学際研究センター 21 世紀 COE プログラム「一神教の学際的研究——文明の共存と安全保障の視点から——」第 5 回部門 1・2 合同研究会』，同志社大学今出川キャンパス寧静館 5 階会議室（京都）
- 2007.01.16 「イスラーム原理主義をめぐる動向とマスコミへの注文」，『共同通信社編集局外信部講演会』，共同通信社本社（東京）
- 2006.12.26 「イスラーム穏健派の論理——過激派への批判と意図せざる“支援”」，『外務省国際情報統括官組織第二国際情報官室主催分析研究会』，外務省（東京）

一般書監修

- 2006.04.19 『Newsweek THE WORLD IN 2006 イスラームの基礎知識（ニューズウィーク日本版 2006 年 4 月 19 日号特別付録）』，株式会社阪急コミュニケーションズ，16 p.

公開講座

- 2006.12.05 「ユダヤ教、キリスト教、イスラーム」，府中市民カレッジ『中東の人々の多様な暮らし』府中市生涯学習センター（府中市生涯学習センター）
- 2006.11.15 「世界の宗教地図とキリスト教」，国分寺市立もとまち公民館国際関係講座『キリスト教文化と国際関係』国分寺市立もとまち公民館（国分寺市立もとまち公民館）
- 2006.08.04 「ユダヤ教、キリスト教、イスラーム」，第 41 次長野市民教養講座『イスラーム世界の統一性と多様性——中東を中心に』長野市民教養講座運営委員会（ホテルメトロポリタン長野）
- 2006.06.17 「イスラーム教徒の冠婚葬祭と日常生活」，2006 年度早稲田大学オープンカレッジ『宗教の世界を垣間見る』早稲田大学エクステンションセンター（早稲田大学エクステンションセンター）
- 2006.06.10 「イスラームとは何か」，2006 年度早稲田大学オープンカレッジ『宗教の世界を垣間見る』早稲田大学エクステンションセンター（早稲田大学エクステンションセンター）

取材協力および紹介報道など

- 2007.01.01 「イスラム何でも Q&A」, 福井新聞ほか (福井新聞社ほか)
- 2006.12.13 「マレーシア・クランタン州における女性服装規制」, スーパーニュース (フジテレビ)
- 2006.08.21 「英国旅客機爆破テロ計画の背景」, おはよう日本 (NHK 総合)
- 2006.08.18 「英国旅客機爆破テロ計画の背景」, おはよう日本 (NHK 総合)
- 2006.08.12 「パキスタンの過激派が支援か 政府の監視対策が成果」, 毎日新聞 (毎日新聞社), 7 p.
- 2006.07.28 「イスラエルによるレバノン攻撃」, 小島一宏モーニングあいランド (東海ラジオ)
- 2006.06.08 「イラク駐留米軍がザルカーウィーを殺害」, BS ニュース今日の世界 (NHKBS1)

書評

- 2006.12.30 「「核武装」か「米の保護領」か——日本に二者択一を迫る書」, E・トッドほか編 『「帝国以後」と日本の選択』, 藤原書店, (『学芸総合誌環【歴史・環境・文明】』 vol.18 / 2004年夏から再録), pp.162-170

1.4 伊藤智ゆき

論文共著

- 2006.01.01 ‘The adaptation of Japanese loanwords into Korean’ (with Yoonjung Kang and Michael Kenstowicz), *Studies in Loanword Phonology (MITWPL 52)*, edited by Feng-fan Hsieh and Michael Kenstowicz

口頭発表

- 2007.03.05 ‘Gradient Morpheme Structure and Co-occurrence Restrictions’, *Phonology Circle*, MIT (Cambridge, MA, USA)
- 2006.11.02 「韓国語の音節構造と共起制限」, 『AA研フォーラム』, AA研(東京)
- 2006.10.28 ‘Coronal Coda Distribution in Korean Nouns’, 『音韻に関する通言語的研究, 平成18年度第2回研究会』, AA研(東京)

1.5 太田信宏

学術的報告など

- 2007.01.31 「西欧勢力の進出(第四章4)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.179-190
- 2007.01.31 「藩王国の支配(補説13)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.275-277
- 2007.01.31 「年表(南インド先史~1947年)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.26-57
- 2007.01.31 「ヴィジャヤナガル王国滅亡後の政治と社会(第四章3)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.169-179
- 2007.01.31 「ハイダル・アリーとティプ・スルターンの改革(第五章2)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.208-215
- 2007.01.31 「セント・トマス伝説(補説7)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.190-193
- 2007.01.31 「カーナティック戦争とマイソール戦争(第五章1)」, 辛島昇編『世界歴史体系 南アジア史3—南インド—』, 山川出版社, pp.197-208

口頭発表

- 2007.01.13 「『サンスクリット世界』の形成と解体をめぐる諸問題」, 『平成18年度科学研究費補助金基盤研究(B)「近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク」(研究代表者:桃木至朗、大阪大学大学院)研究会』, 大阪大学大学院文学研究科(大阪)

1.6 大塚 和夫

論文

- 2007.01.15 「特集 アメリカの戦争: 『宗教戦争』の時代?」, 『季刊 軍縮地球市民』, pp. 26–29
2007.01.12 ‘The Commercialization of Religious Facilities: Are There Limits?’, *AGLOS News*, pp. 4–11

学術的報告など

- 2006.07.20 「『アラーの神』という誤訳—日本語によるイスラーム理解の諸問題—」, 『社団法人日本工業倶楽部『会報』第二百十七号號』, pp. 82–93

口頭発表

- 2006.12.09 「ユダヤ民族と近代法 学会発表コメント」, 『第2回 CISMOR ユダヤ学会議「ユダヤ学の多様性:取り巻く異文脈との対話」セッションC』, 同志社大学(京都)
2006.11.02 「コメント—研究史としての日本の地域研究—戦前、戦後、そして未来へ コメントーター」, 『地域研究コンソーシアム2006年度年次集会』, キャンパスイノベーションセンター 国際会議場・東京
2006.11.01 「人類学バトル第2戦—人類学は単なる地域研究でいいのか?」(問題提起:出口顕, 論駁:大塚和夫, 再問題提起:栗田博之, 最論駁:永渕康之と共著), 『日本文化人類学会関東地区研究懇談会』, 成城大学(東京)
2006.07.22 「歴史人類学からみた歴史学」, 『HYI Alumni Meeting in Japan 2006 歴史学とアジアの近代的学問編成』, 東京大学駒場キャンパス(東京)

エッセイ等

- 2006.08.01 「ナイルの賜物の食事」, 『vesta—食文化誌ヴェスタ』, pp. 49–59
2006.07.25 「所長あいさつ」, アジア・アフリカ言語文化研究所『通信』, 1 p.

公開講座

- 2006.09.13 「中東の今を考える—イスラーム文化を知る」, 『砧生涯学習セミナー:60歳以上対象』世田谷区砧総合支所地域振興課生涯学習施設(砧総合支所)
2006.07.04 「異文化としてのイスラーム」, 『平成18年度市民大学事業一般教養コース『むらさき学苑』講座』三鷹市社会教育会館(三鷹市社会教育会館)
2006.05.09 「『アラーの神』という誤訳—日本語によるイスラーム理解の諸問題—」, 『日本工業倶楽部 素修会例会』日本工業倶楽部素修会(日本工業倶楽部)

取材協力および紹介報道など

- 2007.02.12 「イスラムの暦と悲劇」, 信濃毎日新聞(信濃毎日新聞社)
2006.10.16 「イスラムへの偏見の根」, 信濃毎日新聞(信濃毎日新聞社)
2006.06.19 「『ザルカウイ』生む無関心」, 信濃毎日新聞(信濃毎日新聞社)

書評

- 2007.03.05 「羽田功編『民族の表象』」, 『学燈』, pp. 36–39

一般書共著

2007.02.25 『世界の食文化 10. アラブ』(黒木英充, 酒井啓子, 大川真由子, 大坪玲子, 宮治美江子(執筆順)と共著), 農文協, 297 p.

1.7 小川了

学術的報告など

2006.10.25 「コメント」, 『歴史学研究 増刊号』, pp. 113-116

書評

2007.03.31 「書評 松井健著『柳宗悦と民藝の現在』」, 『文化人類学』, pp. 563-564

1.8 小田淳一

論文共著

2006.12.15 「クイズ番組に見るレトリック技法」(石井満と共著), 『人工知能学会第2種研究会ことば工学研究会資料』, pp.39-48

学術的報告など共著

2006.06.01 「文字法の認知的諸相」(往住彰文, テリー・ジョイス, 原田悦子, 中道静香, 鷺見朗子, 小田弘美と共著), ペーリ・バースカララーオ編 『アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, pp.33-41

2006.06.01 「アラビア系文字の歴史的変遷と文字圏成立過程の研究」(徳永里砂, 中道静香, 永崎研宣, 飯塚正人と共著), ペーリ・バースカララーオ編 『アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, pp.23-32

口頭発表

2006.10.26 'Illustrations des Mille et une nuits - contes, artistes, styles -', l'Ecole des Beaux Arts de La Réunion (La Réunion, France)

エッセイ等

2006.11.25 「レバノンからの脱出」, アジア・アフリカ言語文化研究所『通信』, pp.7-10

取材協力および紹介報道など

2006.09.20 「関雪略歴と家系」, 日本書法, Vol.8, 特集「橋本関雪とその美学」(書道芸術社), 19 p.

1.9 河合香吏

論文

- 2007.03.31 「序 生きる場の人類学にむけて—土地と自然の認識・実践・表象過程」, 河合香吏編『生きる場の人類学—土地と自然の認識・実践・表象過程』, 京都大学学術出版会, i p.
- 2007.03.31 「ドドスの腸占い—牧畜民の遊動に関わる情報と知識資源の形成をめぐる」, C. ダニエルス編『知識資源の陽と陰 (仮題)』, 弘文堂
- 2007.03.31 「ドドスにおける外界認識と行為の現場」, 河合香吏編『生きる場の人類学—土地と自然の認識・実践・表象過程』, 京都大学学術出版会, pp.85-117

著書単編

- 2007.03.31 河合香吏編『生きる場の人類学—土地と自然の認識・実践・表象過程』, 京都大学学術出版会, 421+xvi p.

学術的報告など共著

- 2006.12.31 「変貌するアフリカ・変貌する諸学との対話へむけて— 21 世紀のアフリカ研究と生態人類学」 (真島一郎と共著), 『アフリカ研究』, pp.75-80

1.10 栗原浩英

論文

2006.09.01 ‘Направление нынешних вьетнамско-китайских отношений’, *Дипломатическая служба* 09/2006, pp.43–47

論文共著

2006.06.30 「第7章 米中接近とベトナム労働党」(増田弘, 伊藤剛, 望月敏弘, 松田康博, 潘亮, 倉田秀也, 宮城大蔵, 斎藤元秀と共著), 『ニクソン訪中と冷戦構造の変容』, 慶応義塾大学出版会, pp.181–206

報告書

2006.06.01 『第二次世界大戦直後におけるソ連勢力圏の形成とスターリンの対外認識』, 65 p.

口頭発表

2006.11.25 「ドイモイの20年:制度としての社会主義から理念としての社会主義へ」, 『メトロポリタン史学会第2回秋季シンポジウム「いま社会主義を考える—歴史からの眼差し—」』, 首都大学東京 91年館多目的ホール (東京)

2006.07.03 ‘56 Years of the Vietnam - China Relations: Alliance, Hostility and Partnership’, Institute für Asien- und Afrikawissenschaften, Humboldt Universität zu Berlin (Berlin)

1.11 呉人徳司

論文

2006.04.17 「モンゴル語諸方言における受身と使役について」, 「ユーラシア諸言語の研究」刊行会編『ユーラシア諸言語の研究: 庄垣内正弘先生退任記念論集』, 「ユーラシア諸言語の研究」刊行会, pp.81-92

口頭発表

2007.01.25 「北東ユーラシア言語資料のデータベース化とその公開について」(長崎郁, 丹菊逸治, 竹林暁と共著), 『AA 研フォーラム』, アジア・アフリカ言語文化研究所(東京)

2006.12.23 'Language Pollution in Mongolian: With a Primary Focus on Khorchin Dialect', *International Symposium "Past and present dynamics: The Great Mongolian State"*, アジア・アフリカ言語文化研究所(東京)

電子発表・公開データベースなど

2007.03.01 「北東ユーラシアの言語文化」, ロシアのシベリア地域、サハリン州に居住する先住民族のことばと民話資料, <http://www.ling-atlas.jp/>

1.12 黒木英充

学術的報告など

- 2006.12.07 「レバノンの国民協約（1943年）」，歴史学研究会編『世界史史料 10 20世紀の世界 I ふたつの世界大戦』，岩波書店，pp.366–368
- 2006.12.07 「シリア大反乱（1925年7月）」，歴史学研究会編『世界史史料集 10 20世紀の世界 I ふたつの世界大戦』，岩波書店，pp.179–180

口頭発表

- 2007.02.09 「歴史文書のデジタル化を通じて立ち現れる地域」，『シンポジウム・地域研究と情報学：新たな地平を開く』，京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区）
- 2007.02.01 ‘chair and comment’，*Cultures, Conflicts and Peace-building*，国際文化会館（東京都港区六本木）
- 2007.01.28 ‘Welcome Remarks and Preamble’，*Ethnic Division of Polity and Society in Post-Civil War and Under-Conflict Nations: Cyprus, Lebanon, Former Yugoslavia, Iraq and Israel/Palestine*，東京グリーンパレス（東京都千代田区二番町2）
- 2006.07.21 「趣旨説明」，『緊急ワークショップ「中東戦争の深淵—イスラエルの対レバノン攻撃をめぐる』，明治大学リバティタワー1階リバティホール（東京都千代田区神田駿河台1-1）
- 2006.06.05 ‘Sardinian Consul, Agents, and Villagers: Chains of Debts and Credits Observed on Aleppo Court Registers’，*Table ronde « Al-amr kama fihī »: examen critique des documents des tribunaux ottomans du Bilad ash-Sham*，Institut Français du Proche-Orient (Damascus, Syria)

エッセイ等

- 2006.07.25 「北シリアの丘」，『アジア・アフリカ言語文化研究所 通信』，pp.21–26

取材協力および紹介報道など

- 2007.01.16 「中東研究日本センター開所から1年（アラビア語）」，al-Balad（レバノン日刊紙）
- 2006.10.21 「中東研究の拠点再開に汗」，読売新聞（夕刊）「ラウンジ」欄（読売新聞社）
- 2006.09.10 「臨界近づく「世界内戦」（米中枢同時テロ5年 識者の目）」，信濃毎日新聞ほか
- 2006.08.23 「マップで読むレバノン危機」，ニューズウィーク日本語版夏季合併号（阪急コミュニケーションズ），pp.26–27
- 2006.08.20 「「反テロ戦争」の現実」，DAYS JAPAN vol.3, No.9（デイズジャパン），9 p.
- 2006.08.01 「中東研究日本センター、レバノンとの文化的対話を開始（アラビア語）」，al-Bayan（レバノン月刊誌）417号，130 p.
- 2006.07.31 「イスラエルのレバノン攻撃について」，NHK ラジオタ刊（NHK）
- 2006.07.15 「（談話）「市民感情に逆作用も」（ヒズボラ・イスラエル戦闘）」，毎日新聞（朝刊）国際面（毎日新聞社）
- 2006.06.20 「中東研究日本センターがレバノンに開設」，季刊 アラブ No.117（日本アラブ協会），34 p.

2006.05.01 「黒木英充教授に聞く（アラビア語）」, al-Afkar (レバノン週刊誌) 1237号, pp.50-51

2006.03.21 「この人-レバノン政府の認可を受けベイルートに中東研究拠点を開設した黒木英充さん」, 愛媛新聞ほか

電子発表・公開データベースなど

2007.02.01 「オスマン帝国時代の古地図デジタル化プロジェクト」, 地中海、オスマン帝国領にかかわるオスマン帝国時代の古地図 7 点のデジタル化,
<http://www.aa.tufs.ac.jp/fsc/gis/ottomanmaps/index.html>

エッセイ等共著

2007.02.25 「歴史的シリア」, 大塚和夫編 『世界の食文化 10 アラブ』, 農文協, pp.48-87

1.13 近藤信彰

著書共編

- 2006.10.01 *Persian Historical Epistles from Iran and Mawara an-nahr: The Safavids, the Uzbeks, and the Mangits* (ed. Mansur SEFATGOL; KONDO Nobuaki), Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, 586+5 p.

口頭発表

- 2006.10.29 「19世紀テヘランのマドラサとワクフ」, 『日本オリエント学会第48回大会』, 早稲田大学文学部戸山キャンパス (東京)
- 2006.08.04 ‘Loans in Qajar Tehran: A Study on Bay’-i Shart’, *The Sixth Biennial Conference on Iranian Studies*, School of Oriental and African Studies (SOAS) (London)

公開講座

- 2007.01.26 「テヘラン——210年間の首都」, 異文化理解講座『中東・西アジア都市周遊—今を生きる歴史都市』 国際交流基金 (国際交流基金国際会議場)

1.14 澤田英夫

論文

- 2007.03.01 「ロンウォー語テキスト 6 編」, *RESEARCH ON MINORITY LANGUAGES OF SOUTH AND SOUTH-EAST ASIA WORKING PAPERS* (ed. Peri Bhaskararao), Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, pp.32–61
- 2006.12.28 「ビルマ語地名照合の技法」, 澤田英夫編 『ビルマ地誌フォーラム—企画・調査・試験的公開—』 (平成 15-17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, pp. 103–233
- 2006.09.25 「ロンウォー語における動詞の文法化にかかわる現象」, 『アジア・アフリカの言語と言語学』, pp.1–24

口頭発表

- 2006.09.17 ‘ʔä-prefixation on verbs and auxiliaries in Lhaovo (Maru) Language: non-derivational use’, *the 39th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics*, University of Washington (Seattle, USA)

1.15 椎野若菜

論文

2007.03.30 「ケニア・ルオの生活居住空間（ダラ）—その形成と象徴的意味の変化—」, 河合香吏編『生きる場の人類学—土地と自然の認識・実践・表象過程』, 京都大学出版会, pp.331–362

学術的報告など

2007.03.25 「AA 研フォーラム やもめの人類学」, 『通信』 119号, アジア・アフリカ言語文化研究所, pp.80–83

2006.06.30 「寡婦という言葉」, 『民博通信』 No.113, pp.16–17

2006.06.30 「「墓の妻」となった女性の生きる道—エイズと伝統のはざま」, 『民博通信』 No.113, pp.13–15

学術的報告など共著

2006.06.30 「リーディング・ガイド」(松園万亀雄と共著), 『民博通信』 No.113, pp.16–17

口頭発表

2007.02.24 「ケニア・ルオの居住集団と居住空間」, 『民族学博物館共同研究 家の人類学—新たな親族研究に向けて(代表・小池誠)』, 成城大学民俗学研究所会議室(東京)

2006.06.15 「寡(やもめ)の人類学」, 『AA 研フォーラム』, 東京外国語大アジア・アフリカ研究所(東京)

2006.06.04 「分科会 配偶者亡きあとの寡(やもめ)の処遇(代表・椎野若菜)—趣旨説明—」, 『日本文化人類学会第40回研究大会』, 東京大学(東京)

エッセイ等

2007.03.25 「民族のこころ 152 ケニア・ルオ村落で迎えた年末年始」, 『通信』 119号, アジア・アフリカ言語文化研究所, pp.20–21

2006.05.30 「ルオの王宮」, 『エコソフィア』, pp.62–63

書評

2007.01.30 「伊藤幹治著『日本人の人類学的自画像—柳田国男と日本文化論再考』」, 『成城大学民俗学研究所ニュースレター』, 4 p.

1.16 塩原朝子

論文

- 2006.10.01 「スンバワ語の「移動とその目的」を表す動詞連続構文」, 『アジア・アフリカの言語と言語学』, pp.45-57
- 2006.06.01 「バリ語の接頭辞 ma- - 「終結点を持たない状況」を標示する接辞-」, 加藤重広・吉田浩美編 『言語研究の射程』, ひつじ書房, pp.27-150
- 2006.12.01 'Person marking system in Sumbawa', *Animacy in Languages* (ed. YOSHIDA Hiromi, KOJIMA Yasuhiro), Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, pp.75-96

口頭発表

- 2006.07.01 「バリ語の applicative verb」, 『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「形態・統語分析における ambiguity (曖昧性) 通言語的アプローチ 第二回研究会』, 東京外国語大学本郷サテライト (東京)
- 2006.06.18 「スンバワ語の指示詞」, 『日本言語学会 第 132 回大会』, 東京大学 (東京)
- 2006.04.29 「インドネシアにおける多言語状況—三つの地域 (バリ、スンバワ、アロール) の事例から」, 『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、共同研究プロジェクト「インドネシアの国語政策と言語状況の変化」 第一回研究会』, アジア・アフリカ言語文化研究所 (東京)

1.17 芝野耕司

論文

- 2007.03.02 「言語教育用 LMS JPLANG の概念と機能」, 『UEC e-Learning 国際フォーラム「世界の大学における e-Learning の動向と課題」』, 51—55 p.
- 2006.11.24 「e-日本語のための e-Learning システム JPLANG」, 『平成 18 年度 情報教育研究集会論文集』, pp.75-78

口頭発表

- 2006.07.28 「e-日本語—インターネットで広げる日本語の世界」, *e-Learning World 2006*, 東京ビックサイト (東京)

電子発表・公開データベースなど

- 2006.04.01 「JPLANG 日本語を学ぶ」, 現代 GP 及び科研基盤 (A) で開発している日本語の総合 e-Learning サイト, <http://jplang.tufs.ac.jp/>

1.18 新谷忠彦

論文

- 2007.03.16 ‘Lahu terminology concerning chicken and some other domestic animals’, *The 2007 HCMR Congress* (ed. HCMR), HCMR, pp.105–107
- 2006.06.30 ‘Ethno-linguistic study of jungle fowl, domestic chicken and some other domestic animals in Thailand’, 原田昭編 『生き物の形態とヒトとの関わり』, 筑波大学, pp.62–65

1.19 陶安あんど

論文

2006.12.01 「殊死考」, 『法制史研究』, pp.1-32

口頭発表

- 2006.12.16 「再び秦律の労役刑と身分について」, 『法制史学会近畿部会定例研究会』, 京都大学(京都)
- 2006.12.14 「殊死考」, 『中華法系国際研究会』, 中国政法大学法律史研究中心(北京)
- 2006.12.14 「中国のいわゆる『賤民』について」, 『AA研フォーラム』, AA研(東京)
- 2006.09.16 「殊死考」, 『中華法系国際研究会』, 中国政法大学法律史研究中心(北京)
- 2006.08.21 「秦漢刑罰体系の形式的検討」, 『第25回東洋法制史研究会』, 日本大学千石原寮(箱根)
- 2006.07.15 「漢代の『殊死』概念と変則的贖罪制度について」, 『法制史学会東京部会第213回例会』, 専修大学(東京)

公開講座

- 2007.03.15 「法律的観念体系与資源分配」, 中国青年政治学院法学系(中国青年政治学院法学系、北京)
- 2007.03.12 「浅談秦漢法律史——從観念与現实的兩個角度」, 中国政法大学大学院(中国政法大学大学院、北京)
- 2006.09.19 「試談中国恩赦制度与刑罰体系演变的關係」, 中国青年政治学院法学系(中国青年政治学院法学系、北京)
- 2006.09.18 「指鹿爲馬与日本式的基層社会主義」, 人民大学法学院(人民大学法学院、北京)

書評

- 2007.03.01 「東川祥丈「東漢律学考」(小南一郎編『中国文明の形成』、京都、2005年)」, 『法制史研究』

1.20 高島淳

論文

- 2007.03.23 「Abhinavagupta 作 Tantrāloka 第 13 章訳と注解: Jayaratha 註釈付 (2)」, 『東洋文化研究所紀要』第 151 冊, pp.272–320
- 2007.01.31 「シャイヴァ・シッターンタの成立」, 辛島昇編 世界歴史大系『南アジア史 3—南インド—』, 山川出版社, pp.116–119

口頭発表

- 2007.01.05 ‘Early History of Śaiva maṭhas’, *Early Śaivism Workshop: The Testimony of the Nīśvāsatattvasaṃhitā*, EFEO (Pondicherry, India)

取材協力および紹介報道など

- 2006.09.28 「マラーヤラム語辞書についての紹介報道記事」, *The Hindu*

1.21 高知尾仁

著書

2006.09.10 『表象のエチオピア—光の時代に』, 悠書館, 361+iii p.

口頭発表

2007.02.10 「表象についての概要」, 『共同研究プロジェクト「表象に関する総合的研究」』, AA 研
小会議室 (東京)

1.22 クリスチャン・ダニエルス

学術的報告など

2006.09.30 「雲南南部の生態環境史の構築に向けて」, 秋道智彌編『総合地球環境学研究所プロジェクト 4—2 2005 年報告書アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の総合的研究:1945—2005』, 総合地球環境学研究所, pp.497—501

学術的報告など共著

2007.03.31 「伝統的資源管理」(野本敬と共著), 秋道智彌編『図録メコンの世界—歴史と生態』, 弘文堂, pp.134—135

口頭発表

2007.03.19 「タイ文化圏における戦争:戦略のためか、領土拡張のためか」, 『東京外国語大学 AA 研政治文化ユニット研究会』, AA 研 301 号室セミナー室 (東京)

2006.09.15 「伝統中国における「乾杯」の一側面について」, 『乾杯の文化研究会』, 日本酒造中央会館 8 階会議室 16 時~18 時 (東京)

1.23 床呂郁哉

論文

- 2007.01.15 「海賊鎮圧」から「対テロ戦争」へ—欧米の東南アジア関与における「長い持続」, 『軍縮地球市民』, pp. 70–75.
- 2006.04.01 ‘Border Crossing and Politics of Religion in Sulu.’, *Militant Islam in Southeast Asia(Asian Cultural Studies 15:Special Issue)*, pp. 121–136

学術的報告など

- 2007.03.01 「「もの」の人類学的研究の可能性と課題—もの・身体・環境-系のダイナミクスから」, 『総合人間学叢書』, pp. 76–79
- 2006.11.25 「「東南アジアのイスラーム (ISEA)」プロジェクトが目指すもの」, 『通信』, pp. 1–6.

口頭発表

- 2006.11.05 「移動、場所、アイデンティティ:スルー・ボルネオ周辺地域におけるサマ (バジャウ) 人の事例から」, 『国立民族学博物館・共同研究会「ユビキタス社会の物と家庭に関する研究」』, 国立民族学博物館 (大阪 (千里万博公園))
- 2006.10.07 「東南アジアのイスラーム」, 『ニーズ対応型地域研究推進事業枠研究課題「東南アジアのイスラーム: トランスナショナルな連関と地域固有性の連関」第一回総合ワークショップ』, 東京外国語大学 AA 研 (東京)
- 2006.07.22 「沖縄における生活文化を通じた安全保障 —エスノ・セキュリティ試論」, 『日本学術振興会人文社会科学プロジェクト「人間の安全保障学の構築」研究会』, 東京外国語大学本郷サテライト (東京)

電子発表・公開データベースなど

- 2006.11.15 「文部科学省「ニーズ対応型地域研究の推進」事業枠「東南アジアのイスラーム:トランスナショナルな連関と地域固有性の動態」プロジェクト公式サイト」, 文部科学省「ニーズ対応型地域研究の推進」事業による「東南アジアのイスラーム (略称 ISEA)」研究プロジェクトの公式サイト。床呂はこのうち全体企画とプロジェクト概要紹介等のコンテンツ執筆等を担当。 , <http://www.aa.tufs.ac.jp/fsc/isea/>

1.24 豊島正之

口頭発表

2007.03.16 「言語の記録は何を記録しているのか」, 『人工知能学会 ことば工学研究会、第25回』, AA研(東京)

電子発表・公開データベースなど

2006.10.11 「「聚珍録」データベース」, 府川充男「聚珍録」(3巻、2005、三省堂)は、GICASによる資料整理に基づく出版であり、その全典拠資料1,071点の画像に就て、資料書誌情報・注記事項を正規表現検索と可能として、GICASの情報資源の一つとして公開するもの。、
<http://joao-roiz.jp/FJPMODTYPEF/>

2006.05.31 「小川尚義「臺灣蕃語蒐録」(オンライン版)」, 李壬癸・豊島正之共編(2006.3)「小川尚義 臺灣蕃語蒐録」(AA研アジア・アフリカ基礎語彙集49)のオンライン版。小川尚義(台湾帝国大学言語学教室教授)の畢生の大作「臺灣蕃語蒐録」に収録された台湾原住民諸語の全ての語形を、語形そのもの・和英訳、又はジャンル、調査地点番号から正規表現による検索を可能とし、併せて原本画像をpdfとして提供するデータベース。、
<http://joao-roiz.jp/OGV/>

1.25 中谷英明

論文

- 2007.03.01 「道具知力と知の俯瞰」, 『総合人間学叢書』 2, pp.3-8
- 2007.03.01 「感覚と意識と人格」, 『日仏東洋学会通信』 28, pp.35-41
- 2006.07.01 「スッタ・ニパータにおける dhamma の意味」, 『日本仏教学会年報』 71, pp.17-42
- 2006.07.01 ‘Pour la science generalisee de l’homme’, *Generalized Science of Humanity Series 1*, pp.7-9
- 2006.07.01 ‘Note sur la science generalisee de l’homme’, *Generalized Science of Humanity Series 1*, pp.13-16

口頭発表

- 2007.01.13 「近代古典学前史」, 『AA 研共同研究プロジェクト「地球文明時代における世界理解と新しい倫理・人間観の研究」平成 18 年度第 2 回研究会』, AA 研小会議室 (東京)
- 2007.01.13 「言葉と自然 —ブッダの説いた認識と遊行の意味」, 『第 3 回総合人間学国際シンポジウム』, AA 研大会議室 (東京)
- 2006.07.27 「総合人間学がめざすところ」, 『AA 研共同研究プロジェクト「地球文明時代における世界理解と新しい倫理・人間観の研究」平成 18 年度第 1 回研究会』, 東京外大本郷サテライト 5 階会議室 (東京)

1.26 永原陽子

論文

- 2007.03.31 「ドイツと西南アフリカ/ナミビア—植民地をめぐる「過去の克服」」, 『ドイツ研究』, pp.13–30
- 2006.09.01 「「植民地責任論」試論—ヘレロ補償問題を手がかりに」, 『歴史評論』, pp.2–18
- 2006.05.31 「民主化後の南部アフリカにおける歴史認識—南アフリカとナミビアの場合—」, 小倉充夫編 『南部アフリカにおける民主化と社会構造変動に関する学際的研究 (2003—05 年度科学研究費補助金成果報告書)』, pp.1–22

著書共編

- 2006.12.21 富永智津子, 永原陽子編 『新しいアフリカ史像を求めて—女性・ジェンダー・フェミニズム』, 御茶の水書房, 518+xii p.

口頭発表

- 2006.06.10 「ドイツと西南アフリカ/ナミビア」, 『日本ドイツ学会第 22 回総会シンポジウム』, 立命館大学 (京都)

1.27 中見立夫

論文

- 2007.03.01 「最近の G・E・モリソン関係文献」, 『東洋文庫書報』, 19—43 p.
- 2007.03.01 「“内モンゴル東部” という空間 —東アジア国際関係史の視点から—」, 早稲田大学モンゴル研究所編 『アジア地域文化学叢書 VIII:近現代内モンゴル東部の変容』, 雄山閣, 21—46 p.
- 2007.01.01 ‘Qing China’ s Northeast Crescent: The Great Game Revised’, *The Russo-Japanese War in Global Perspective: World War Zero* (ed. David Wolff, Steve Marks, Bruce W. Menning, David), Brill, pp.513–529
- 2006.12.01 「普林斯顿研究剖記—プリンストン大学東アジア図書館所蔵「川嶋浪速書翰」など—」, 『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』, 60—67 p.
- 2006.12.01 「内蒙古阿倫斯木遺跡与其出土文物的研究」, 郝時遠・羅賢佑編 『蒙元史暨民族史論集—紀念翁独健先生誕辰一百周年』, 社会科学出版社, 436—448 p.
- 2006.11.01 「《滿文大藏經》の探索、考証及其復刊」, 故宮博物院・国家清史編纂委員会編 『故宮博物院八十華誕暨國際清史學術研討會論文集』, 紫禁城出版社, 523—530 p.
- 2006.09.01 「清史滿学研究剖記」, 『滿族史研究』, 137—147 p.
- 2006.09.01 「日本人所認識的「滿洲」」, 陳捷先・成崇徳・李紀祥編 『清史論集』, 人民出版社, 867—874 p.
- 2006.05.01 「日本的“東洋学”の形成と構図」, 岸本美緒編 『岩波講座「帝国」日本の学知』, 岩波書店, 13—54 p.
- 2006.12.01 ‘Орчин үеийн Японы “Дорно дахины түүх судлал” үүсэж хөгжсөн нь (Монгол судлалын эхлэл)’, *Mongolica, an International Annual of Mongol Studies*, pp.180–190
- 2006.07.01 ‘The Mongol Summer in 1911: The Qing-Manchu Amban, the Russian Consul, and the Mongol Secret Mission’, *Монгол судлалын өгүүллийн түүвэл*, pp. 48–54.
- 2006.03.01 ‘The Manchu Bannerman Jinliang’ s Search for Manchu-Qing Historical Sources’, *Tumen jalafun jecen akū: Manchu Studies in Honour of Giovanni Stary [Tungso-Sibirica 20]*, pp. 171–186.

学術的報告など共著

- 2006.03.31 ‘PREFACE’ (with Vladimir Uspensky), “Explanation of the Knowable” by ‘Phags-pa bla-ma, Blo-gros rgyal-mtshan (1235-1280): Facsimile of the Mongolian Translation with Transliteration and Notes (ed. NAKAMI Tatsuo), Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, vii. p.

口頭発表

- 2007.03.30 ‘How to narrate Mongol history: Mongol, Qing and Japanese scholars’ historiographies on the Mongols in the 19th-early 20th centuries’, *Workshop: “The sense of the Past among Inner Asian People”*, Institute for Advanced Study (Princeton, the USA)
- 2007.02.27 ‘The Mongols’ Search for ‘Independence’ in 1911, a Multi-Archival Approach’, *East Asian Studies Seminar*, Institute for Advanced Studies (Princeton, the USA)

- 2006.12.16 「“内モンゴル東部” という空間 —東アジア国際関係史の立場から—」, 『21世紀 COE 関連シンポジウム:近現代における内モンゴル東部地域の変容 IV』, 早稲田大学文学部 (東京)
- 2006.11.28 「我記憶中的翁独健老師」, 『紀念翁独健先生百年誕辰座談会』, 中協賓館 (中国、北京)
- 2006.06.04 「近代時期的日本歴史学者是如何描述蒙元史和成吉思汗的」, 『成吉思汗与蒙古汗国建立 国際研討会』, 中国社会科学院 (中国、北京)
- 2006.08.06 ‘Орчин үеийн Японы “Дорно дахины түүх судлал” үүсэж хөгжсөн нь Монгол судлалын эхлэл’, *The 9th International Congress of Mongolists*, Mongolian National University (Ulaanbaatar, Mongolia)

エッセイ等

- 2007.01.01 「外国人には理解しがたい日本史のことば—「大陸浪人」とその周辺—」, 『日本歴史』, 126—131 p.
- 2006.03.01 「“Archives” は歴史を拓く」, 『東アジア研究 [大阪経済法科大学アジア研究所]』

取材協力および紹介報道など

- 2006.09.29 「TV インタビュー」, HD 歴史スペシャル「朝鮮史編修会の歴史研究と成果」(KBS(韓国放送))

書評

- 2007.01.01 「書評:松浦茂『清朝のアムール政策と少数民族』(京都大学学術出版会、2006年2月)」, 『社会経済史学』, 113—115 p.

1.28 中山俊秀

論文

- 2007.03.01 ‘Using written records to revitalize North American languages’, *The Vanishing Languages of the Pacific Rim* (ed. Osahito Miyaoka, Osamu Sakiyama, and Michael Kraus), Oxford University Press, pp.91–106

口頭発表

- 2007.03.10 「ヌートカ語における『所有者上昇構文』」, 『世界の諸言語における態 (voice) の類型論的研究 2006 年度第 2 回研究会』, 国立民族学博物館 (大阪)
- 2007.01.07 ‘Characteristics of Nuuchahnulth polysynthesis’, *Annual Meeting of the Society of the Study of the Indigenous Languages of the Americas*, Anaheim Hilton (Anaheim, California, U.S.)
- 2006.12.06 「言語学でのフィールドワーク」, フィールドサイエンス・コロキウム第 1 回『フィールドサイエンスの手法構築に向かって—臨地研究の実践と理論』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (東京)
- 2006.07.15 「ヌートカ語における名詞化」, 『重点共同研究プロジェクト『言語の多様性と言語理論: 記述的研究コミュニティー構築部会』平成 18 年度第 1 回研究会』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (東京)
- 2006.06.03 「ヌートカ語の語形成の特徴」, 『重点共同研究プロジェクト『言語の多様性と言語理論—「語」の内部構造と統語機能を中心に』平成 18 年度第 1 回研究会』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (東京)

1.29 西井凉子

論文

- 2007.03.30 「「出来事」のエスノグラフィー—南タイにおけるエビ養殖という投機的行為の流れ」, 河合香吏編 『生きる場の人類学—土地と自然の認識・実践・表象過程』, 京都大学出版会, pp.297-330

口頭発表

- 2006.06.17 「関係を生きる—ムスリムと仏教徒が共住する南タイの日常的実践の場から」, 『人類社会の進化史的基盤研究(1)』アジア・アフリカ言語文化共同研究プロジェクト 2006年度第1回研究会, AA研(東京)
- 2006.05.28 「南タイにおける改宗をめぐる—女性・ジェンダーの視点から」, 『イスラム教圏東南アジアにおける社会秩序の構築と変容』2006年度第1回研究会, 京都大学地域研究統合情報センター(京都)

公開講座

- 2006.12.08 「ムスリムと仏教徒の共生—タイ南部」, 『国際交流基金中東理解講座「グローバル化するイスラーム(2)」第9回』国際交流基金(ジャパンファウンデーション国際会議場)
- 2006.10.26 「タイの家族と生活文化」, 『平成18年度 市内・近隣大学等公開講座 東京外国語大学』「世界の家族と生活文化」第4回 調布市(調布市文化会館たづくり)
- 2006.04.22 「南タイにおけるムスリムと仏教徒—改宗者の死をめぐる」, 『日本イスラム協会公開講演会』「イスラームの少数派—タイのムスリム」 日本イスラム協会(東京大学)

1.30 根本敬

論文

- 2007.03.25 ‘Between Collaboration and Resistance: Reconsidering the Roles of Ba Maw and Aung San in their Context of Asserting Burmese Nationalism’, *Reconsidering the Japanese Military Occupation in Burma (1942-45)* (ed. Kei NEMOTO), ILCAA, pp.1–27
- 2007.03.01 ‘Between Democracy and Economic Development: Japan’s Policy towards Burma/Myanmar: Then and Now’, *Myanmar in Comparative Perspective: State, Society and Ethnicity* (ed. N.Ganesan and Kyaw Yin Hlaing), Institute of Southeast Asian Studies, pp.96–108
- 2006.05.25 「東南アジアにおける「対日協力者」：「独立ビルマ」パモオ政府の事例を中心に」, 倉沢愛子編 『岩波講座アジア・太平洋戦争（第7巻）』, 岩波書店, pp.313–344

著書単編

- 2007.03.25 *Reconsidering the Japanese Military Occupation in Burma (1942-45)*, ILCAA, 236 p.

学術的報告など

- 2006.12.01 「(史料翻訳と解説) 236 ビルマの抗日闘争 (1945年3月)」, 世界史史料編集委員会編 『世界史史料 (第10巻)』, 岩波書店, pp.388–390
- 2006.12.01 「第二次世界大戦期のビルマ地誌情報:英国東南アジア軍司令部 (SEAC) 地誌局 (ISTD) 編纂『中央ビルマ報告』の紹介を中心に」, 澤田英夫編 『科研成果報告書『ビルマ地誌フォーラム:企画・調査・試験的公開』(研究代表者:澤田英夫、基盤研究B、課題番号15310165)』, 澤田英夫, pp.1–17

口頭発表

- 2007.03.22 「植民地ナショナリズムの光と影:ビルマのタキン党と英系ビルマ人」, 『AA研フォーラム』, AA研マルチ・メディアルーム (東京)
- 2007.03.19 「英系ビルマ人たちの第二次世界大戦の記憶をめぐって」, 『AA研政治文化研究ユニット研究会』, AA研301号室 (東京)
- 2007.02.24 「ロヒンギャー問題の歴史的背景:「仏教国」ビルマの中のイスラム教徒たち」, 『ビルマ市民フォーラム (PFB) 第48回例会』, ECOとしま (東京)
- 2007.02.16 「第二次世界大戦期の日本とビルマ:その光と影」, 『名桜大学総合研究所主催:日本とビルマの関係 (太平洋戦争から21世紀まで)』, 名桜大学総合研究所 (沖縄県名護市)
- 2006.12.02 「ビルマにおける日本の敗戦とその意味:1945-47年の記録から」, 『(科研)「東アジアメディア産業研究」主催:国際シンポジウム「メディアにおける終戦」』, 東京大学駒場キャンパス (東京)
- 2006.10.21 「ビルマ民主化運動をふりかえる 1988-2006」, 『ビルマ市民フォーラム (PFB) 主催:初めての方のためのビルマ入門講座』, 日本キリスト教会館 (東京)
- 2006.09.30 「日本とビルマの関係をふりかえる」, 『wam de video 2 特別シンポジウム:ビルマの日本軍「慰安婦」を追い続けて』, アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(日本キリスト教会館) (東京)

エッセイ等

- 2006.12.01 「孤立を深めるビルマの軍事政権」, 『月刊オルタ (2006年12月号)』, pp.20-23
- 2006.10.01 「ビルマ留学の残照:ウー・サーミー父子の思い出」, 『青淵』, pp.8-10
- 2006.05.01 「米国の対ビルマ経済制裁の功罪」, 『力の意志 (2006年6月号)』, pp.29-31

1.31 稗田乃

論文

2006.03.24 「「危機」に瀕した言語における変容について」, 『スワヒリ&アフリカ研究』, pp. 141–156

2006.01.01 ‘On singulatives in Nilotic languages’, *Nilo-Ethiopian Studies*, pp. 1–14

著書

2006.12.25 『ナイル語比較研究の諸問題—ナイル語西方言における名詞の語形成法を中心に—』, アジア・アフリカ言語文化研究所, 338 p.

学術的報告など

2006.02.10 「危ない言語に何が起こるか」, 宮岡伯人編 『今、世界のことばが危ない—グローバル化と少数者の言語』, クバプロ, pp. 65–76

口頭発表

2006.11.22 ‘On the role of rhythm in Kumam morphology’, *Wednesday colloquium in Institute for Africanistics, Cologne University*, Institute for Africanistics, Cologne University (Cologne)

電子発表・公開データベースなど

2006.01.01 「コエグ語 2」, 絶滅危惧言語、コエグ語を話す人々をとりまく社会についてのエッセイ。 , <http://chikyukotobamura.org>

2006.01.01 「コエグ語 1」, 絶滅危惧言語、コエグ語を探す旅の中で経験した様々な出来事と、コエグ語についてのエッセイ。 , <http://chikyukotobamura.org>

1.32 深澤秀夫

学術的報告など

2006.05.31 「マダガスカル北西部農村における<生活>velon-tena という考え方に基づいた資源獲得の方法」, 『地方独立制移行期マダガスカルにおける資源をめぐる戦略と不平等の比較研究』, pp.67-94

口頭発表

2006.11.25 「マダガスカルにおける文化領域論の系譜」, 『国立民族学博物館共同研究会 マダガスカルの文化的多様性に関する研究』, 国立民族学博物館 (大阪)

エッセイ等

2006.12.20 「日本で作ろう! マダガスカル料理 第12回 ヴァランガナの巻」, 『SERASERA マダガスカル研究懇談会会報』, pp.8-10

2006.09.30 「日本で作ろう! マダガスカル料理 第11回 ル・マザーヴァの巻 その二 ヴァリ・ラーヴァ シ アナナ」, 『SERASERA マダガスカル研究懇談会会報』, pp.11-12

2006.07.07 「マダガスカルの村の20年」, 『自然と文化そしてことば インド洋の十字路マダガスカル』, pp.50-64

公開講座

2007.03.24 「アンタナナリヴにおける貧困層の歴史—文化的背景について—<奴隷>をめぐる問題—」, 『在マダガスカル邦人会 講演会』 在マダガスカル邦人会 (在マダガスカル邦人会会長自宅)

2006.09.30 「うまいぜ! マダガスカル料理」, 『在マダガスカル邦人会 講演会』 在マダガスカル邦人会 (マハマシナ社会福祉学校教室)

2006.07.02 「うまいぜ! マダガスカル料理」, 『企画展示 「バオバブの木の下で」』 サザンクロス・ジャパン協会 東京農業大学進化生物学研究所 (東京農業大学「食と農」の博物館)

1.33 星泉

著書共編

2007.01.25 *Tibetan Documents from Dunhuang kept at the Bibliothèque nationale de France and the British Library* (ed. Yoshiro IMAEDA, Tsuguhito TAKEUCHI, Izumi HOSHI, Yoshimichi OHARA, Iwao ISHIKAWA, Kazushi IWAO, Ai NISHIDA, Brandon DOTSON), ILCAA, 358+XXXI p.

口頭発表

2006.10.28 「チベット語ラサ方言における接続助詞的な働きをする byas について——動詞から転成した助詞——」, 『第 54 回 (2006 年度) 日本西蔵学会大会』, 早稲田大学戸山キャンパス (東京)

エッセイ等

2006.04.01 「家業を継ぐまで」, 『学術月報』

2006.06.30 'Research into Modern Tibetan Description and Editing Tibetan Dictionary', *JSPS Quarterly*

電子発表・公開データベースなど

2007.01.25 'Old Tibetan Documents Online', 敦煌出土チベット語文献や解題付き校訂テキスト集のオンライン版。すべての文献が検索でき、検索結果は KWIC 形式で表示される。今年度は碑文データを追加する予定。 , <http://otdo.aa.tufs.ac.jp/>

1.34 真島一郎

論文

- 2006.12.07 「仏領西アフリカにおける大量強制徴募（一九一〇年代）」，歴史学研究会編『世界史史料 10 20世紀の世界 I』，岩波書店，pp. 42-44
- 2006.11.01 「体の翻訳／徳の翻訳—ウフェ=ボワニとグラムシの異なる舌から」，澤田直・星埜守之編『アウリオン叢書 04 翻訳の地平—フランス編』，弘学社，pp. 43-55
- 2006.06.30 「序—中間集団の問題系」，『文化人類学』，pp. 22-23
- 2006.06.30 「中間集団論—社会的なるものの起点から回帰へ」，『文化人類学』，pp. 24-49

論文共著

- 2006.12.31 「変貌するアフリカ・変貌する諸学との対話へむけて—21世紀のアフリカ研究と生態人類学」(河合香吏と共著)，『アフリカ研究』，pp. 75-80

学術的報告など

- 2006.11.23 「人間の安全をめぐる多重性と超越性」，『日本経済新聞朝刊』

学術的報告など共著

- 2006.07.30 「ラウンドテーブル:アフリカを問う」(フーベルト・ザウパー，桜井均，日置一太，大森淳郎，船田クラーセンさやかと共著)，西谷修編『グローバル化と奈落の夢』，せりか書房，pp. 106-133

口頭発表

- 2007.01.19 「モースの思考における講義抄録文の意義」，『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト『マルセル・モース研究—社会・交換・組合』平成18年度第3回研究会』，東京外国語大学本郷サテライト（東京）
- 2006.12.22 「中間集団とトランスナショナリティ—「社会・体・倫理」の忘却にまつわる人類学史から」，『以下3会議の共催による単独講演:①大阪大学21世紀COEプログラム『インターフェイスの人文学 トランスナショナリティ研究プロジェクト』トランスナショナリティ研究セミナー第82回、②日本アフリカ学会関西地区例会、③日本文化人類学会近畿地区研究懇談会』，大阪大学ユメヌホール（大阪）
- 2006.12.16 「国家と村落—ウフェ=ボワニの統治倫理に関するメモ」，アジア経済研究所研究会『アフリカの個人支配再考』，上智大学四谷キャンパス（東京）
- 2006.10.14 「スコットランド啓蒙の風景論と精神のふちどり」，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト『表象に関する総合的研究』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京）
- 2006.07.22 「共同研究の趣旨および初年度の作業内容」，『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト『マルセル・モース研究—社会・交換・組合』平成18年度第1回研究会』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京）

- 2006.07.22 「「社会」を問うことの今日的意義—デュルケムからモースへ」(渡辺公三と共著), 『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト『マルセル・モース研究—社会・交換・組合』平成18年度第1回研究会』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(東京)
- 2006.06.03 「中間集団の工学から光学へ」, 日本文化人類学会第40回研究大会分科会『未来性』, 東京大学駒場キャンパス(東京)
- 2006.05.28 「社会的なるものの回帰について」, 日本アフリカ学会第43回学術大会シンポジウム『21世紀のアフリカ国家像を描く』, 大阪大学(大阪)
- 2006.05.20 「オペラとシャリヴァリ—倫理の耳」, 日本フランス語フランス文学会2006年度春季大会ワークショップ『人類学的思考とモダニティ』, 慶應義塾大学三田キャンパス(東京)
- 2006.11.23 'L'Epoque d'images et la culture: Le mur comme mosaïque', *L'OJA-Abidjan 2006: Environnement, Image et Sécurité humaine*, La salle de cinéma «La Fontaine» (SOCOCE Deux-plateaux) (Abidjan (Côte d'Ivoire))

公開講座

- 2006.10.30 「人間の安全をめぐる多重性と超域性」, 東京4大学連合文化講演会『安全と安心の未来をさぐる』東京4大学連合(一橋記念講堂)
- 2006.10.10 「アフリカの国家政治と民族—分業・労働力・紛争」, 『徹底的に考えるアフリカの現在』講座PARC自由学校(アジア太平洋資料センター)
- 2006.07.28 「出口をみつけろ—アフリカン・アートの過去と現在」, 『アフリカ・リミックス:多様化するアフリカの現代美術』展レクチャー 森美術館(森美術館)

1.35 三尾裕子

論文

2006.09.25 「土着化か、あるいは漢化か?—「漢族系台湾人」のエスニシティについて—」, 『中国21』, pp.221-230

報告書共著

2007.03.30 『台湾で「漢人」とは誰か?—台湾における人類学的研究の再考へ向けて』(加々美光行・曾士才・三尾裕子・松岡正子・田村和彦・暁敏・小嶋祐輔と共著), 愛知大学国際中国学研究センター, 234 p.

口頭発表

2006.07.15 「台湾で「漢人」とは誰か?」, 『愛知大学国際中国学センター国際シンポジウム「漢族・少数民族研究の最前線」』, 愛知大学(名古屋)
2006-07-16
2006.07.09 「「植民地」における人類学を検討することの意味—『民俗台湾』を事例に」, 『台湾における植民地主義に関する歴史人類学的研究』, 東洋大学(東京)
2006.11.22 「東京外国語大学亜非語言與文化研究所所蔵之「小川尚義・浅井恵倫台湾資料:内容及其學術與社会価値」, 中央研究院民族学研究所(台北)

公開講座

2007.03.24 「學者與殖民者—日治時期學術調查的真相—」, 『台湾文化與歴史系列講座』 台北保安宮(台北保安宮)

1.36 峰岸真琴

論文

- 2007.03.31 「言語運用を基盤とする言語情報学 — 言語学の観点から」, *Linguistic Informatics and Corpus Linguistics, Linguistic Informatics* (ed. Yuji KAWAGUCHI, Toshihiro TAKAGAKI, Nobuo TOMIMORI), 東京外国語大学大学院, pp.213–221
- 2006.12.25 「形態論と統語論」, 峰岸真琴編 『言語基礎論の構築へ向けて』, アジア・アフリカ言語文化研究所, pp.109–128
- 2006.11.30 ‘Developing Grammatical Modules Based on Linguistic Typology’, *Linguistic Informatics and Spoken Language Corpora — Contributions of Linguistics, Applied Linguistics, Computer Sciences—*, *Linguistic Informatics* (ed. Yuji Kawaguchi, Susumu Zaima, Toshihiro Takagaki,), John Benjamins, pp.331–348

著書単編

- 2006.12.25 『言語基礎論の構築へ向けて』, アジア・アフリカ言語文化研究所, 190+vii p.

辞書・事典

- 2006.01.01 ‘Khmer’, *Encyclopedia of language and linguistics* (ed. Brown, Keith et al), Elsevier, pp.189–192

口頭発表

- 2006.10.21 「言語類型論を考える」, 『日本エドワード・サピア協会講演』, 日本女子大学, 新泉山館 (東京)
- 2006.09.02 「話しことばから書きことばへ:コメント」, 『上智大学シンポジウム「話しことばから書きことばへ」』, 上智大学 (東京)

1.37 宮崎恒二

学術的報告など共著

2007.02.01 ‘Re-construction of Cultural Heritage: Aceh Manuscripts Project after Tsunami’ (with SUGAHARA, Yumi), *Exploring the Past, Searching for the Future* (ed. BRR NAD-NIAS, ARI-NUS), BRR NAD-NIAS, ARI-NUS, 45. p.

口頭発表

2007.02.24 ‘Re-construction of Cultural Heritage: Aceh Manuscripts Project after Tsunami’ (with Yumi SUGAHARA), *First International Conference of Aceh and Indian Ocean Studies*, Swiss BelleHotel, Banda Aceh (Banda Aceh, Indonesia)

エッセイ等

2006.08.01 「こまやかな国際性を目指して — 多元的国際研究教育拠点としての東京外国語大学」, 『文部科学教育通信』, pp. 18-19.

公開講座

2006.05.12 『ジャワ文献学セミナー』 フィールドサイエンス研究企画センター・中東イスラーム研究教育プロジェクト (AA 研)

2 外国人客員

2.1 董 珊

論文

- 2007.01.01 「式日解」, 『文物』
- 2007.01.01 「周公戈辨偽之翻案」, 『華夏考古』
- 2006.12.01 「试论周公庙龟甲卜辞及其相关问题」, 『北京大学中国考古学研究中心、北京大学震旦古代文明研究中心編《古代文明》』, 243~269 p.
- 2006.12.01 「论春平侯及其相关问题」, 北京大学考古文博学院編『《考古学研究》(六):庆祝高明先生八十寿辰暨从事考古研究五十年论文集』, 科学出版社
- 2006.01.01 「珍秦斋藏秦伯喪戈、矛考釋」, 『故宫博物院院刊』
- 2006.01.01 「晉侯墓出土楚公逆鐘銘文新探」, 『中国历史文物』
- 2006.01.01 「向寿戈考」, 『考古』

口頭発表

- 2007.03.17 「戰國紀年法的改革與年號的產生」, 『中國出土資料研究會平成 18 年度大會』, 成城大學 8 號館三階 (東京)
- 2006.12.20 「漢化与胡化:從考古發現看胡服騎射」, 『日本中國考古學九州部會第 31 回例會』, 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室 (福岡)
- 2006.10.26 「戦国時代における紀年方法の変革と年号制度の生成」, 『AA 研フォーラム』, AA 研 (東京)

2.2 Janhunen, Juha Antero

論文共著

2007.03.01 「シベリアのシャマニズム用語について」, 荻原真子編 『ユーラシアにおける精神文化の研究』 第149集, 千葉大学大学院人文社会科学研究所, 80—98 p.

口頭発表

2007.03.08 'Language Expansion in Eurasia', 『AA 研フォーラム』, アジア・アフリカ言語文化研究所マルチメディア会議室 (東京外国語大学)

2006.12.23 'Mongolic as an Expansive Language Family', *International symposium "Past and present dynamics: the Great Mongolian State"*, アジア・アフリカ言語文化研究所大会議室 (東京外国語大学)

3 非常勤研究員

3.1 石井洋子

論文共著

- 2007.02.15 「先住民運動としての「マウマウ」」(綾部恒雄, 岸上伸啓, スチュアート・ヘンリほかと共著), 綾部恒雄編『失われる文化・失われるアイデンティティ』, 明石書店, pp.146-161
- 2006.11.30 「「食」をささえる国際援助」(河合利光, 清水芳見, 阿良田麻里子ほかと共著), 河合利光編『食からの異文化理解』, オフィス2, pp.185-203.

著書

- 2007.02.28 『開発フロンティアの民族誌—東アフリカ・灌漑計画のなかに生きる人びと』, 御茶の水書房, 291 + XIX p.

3.2 塩谷もも

論文

2006.09.30 「ジャワの『台所』に見る社会関係:噂話ともめごとの事例から」, 『生活学論叢』, pp.13-25

2006.09.25 「ジャワにおける儀礼の変化と女性」, 『イスラム世界』, pp.26-48

学術的報告など

2006.10.01 'Rituals and Social Relations in Java: a case study of gossip and conflict', *Proceedings of the SOAS/TUFS Postgraduate Symposium*, pp.3-14

口頭発表

2007.01.19 「ジャワにおける儀礼変化とその背景:女性の役割を中心として」, 『東京都立大学・首都大学東京社会人類学研究会』, 首都大学東京 (東京)

2006.06.04 「ジャワにおける儀礼変化と社会関係:『再イスラーム化』と女性」, 『日本文化人類学会第40回研究大会』, 東京大学 (東京)

3.3 菅原純

著書共編

2006.12.25 河原弥生編 『新疆およびフェルガナのマザール文書（影印）1』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 154 p.

学術的報告など

- 2007.03.31 「カシュガル地方における聖地調査」，『中央アジアのイスラーム聖地—フェルガナ盆地とカシュガル地方—（シルクロード学研究 28）』，pp.19-34
- 2007.03.31 「カシュガル地方における聖地伝承」，『中央アジアのイスラーム聖地—フェルガナ盆地とカシュガル地方—（シルクロード学研究 28）』，pp.67-78
- 2007.03.01 「ドイツ連邦共和国所蔵の新疆資料について—マルティン・ハルトマン収集写本と関連資料—」，新免康編 『中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究』，中央大学, pp.53-70

口頭発表

2006.09.29 'A Historical Source of the Afaqi Khwajas under Qing rule: On Scroll' (with 新免康), *Central Eurasian Studies Society 7th Annual Conference*, Michigan League, (Ann-Arbor MI, USA)

3.4 丹菊逸治

論文

2007.06.01 「ニヅフ語、アイヌ語、ウイльта語の民具関連の共通語彙について」, 中川裕編 『文部科学省科学研究報告書』

論文共著

2007.03.01 「ニヅフ語の植物名称:東方言を中心に」 (水島未記 (北海道開拓記念館学芸員), 白石英才 (札幌学院大学講師) と共著), 『北海道開拓記念館研究紀要』 第 35 号

3.5 長崎郁

論文共著

2006.09.20 「コリマ・ユカギール語」, 中山俊秀・江畑冬生編 『文法を描く — フィールドワークに基づく諸言語の文法スケッチ —』 1, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, pp.179-212

学術的報告など共著

2007.05.01 「コリマ・ユカギール語の民具語彙」, 中川裕編 『アイヌを中心とする日本北方諸民族の民具類を通じた言語接触の研究』, 千葉大学大学院人文社会科学部研究科, pp.113-121

口頭発表

- 2007.01.25 「北東ユーラシア言語資料のデータベース化とその公開について」(呉人徳司, 丹菊逸治, 竹林暁と共著), 『AA 研フォーラム』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所マルチメディア会議室(東京)
- 2006.12.16 「コリマ・ユカギール語の付属語について」, 『言語の構造的多様性と言語理論「『語の内部構造と統語機能研究』部会第3回研究会』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所マルチメディア会議室(東京)

3.6 堀井聡江

論文

2006.06.30 「エジプト民法典における先買権の立法目的」, 『東洋史研究』 第 65 巻第 1 号, pp.35-60

翻訳共著

2006.12.27 「『新しい黎明』 1960 年代カイロのフィリピン・ムスリム留学生論文集邦訳・解説 (1)」
(川島緑と共著), 『上智アジア学』 第 24 号, 183—205 p.

口頭発表

2006.06.24 「近代法におけるイスラーム法継受の問題点—エジプト民法における先買権を中心に—」,
『アジア法学会研究大会』, 北海道大学 (北海道)

エッセイ等

2006.03.31 「中東イスラームにおける呪文—雨乞いを中心に—」, 『自然と文化そしてことば』 創
刊号, 82—90 p.

3.7 渡部良子

口頭発表

2006.10.29 「Daftar-i Dilgusha に見えるシャバーンカーラ史の叙述:モンゴル時代史研究における韻文史書利用性」, 『第48回日本オリエント学会年次大会』, 早稲田大学(東京)

公開講座

2006.12.20 「私の博士論文」, 『中東・イスラーム研究セミナー』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所中東・イスラーム研究教育プロジェクト(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)